

4人が
壇登

一般質問

山口宗一 議員



村でとれた食材は5%弱 榛東村学校給食

質問 榛東村の学校給食に使用している食材のうち、この村で生産された食材は全体の何%くらいか。
教育委員会事務局長 5%弱。
質問 5%は低いと思うが、

それはなぜか。
教育委員会事務局長 通年ではナガネギ、チンゲンサイ、ブドウを利用している。食材により単価面や手間ひまをかける都合がないことで進んでいないのが実情である。
質問 文部科学省の学校給食実施基準で、地場物産や郷土に伝わる料理を積極的に取り入れ、児童生徒が郷土に関心を寄せる心をはぐくむとともに、地域の食文化の継承につながるよう配慮することと提言している。是非、地産地消の推進をお願いしたい。

体力と運動能力の低下を懸念 体格は向上しているのに

質問 文部科学省が行っている子どもの体力・運動能力調査で、30年前と比較すると、ほとんどのテスト項目で子どもの世代が親の世代を下回っている。一方身長・体重など子供の体格は同様に比較すると、逆に親の世代を上回っているようだ。ところで榛東村の児童生徒はどうか。
教育長 体力の低下の要因と考えられる事は、テレビゲーム、塾通い等により遊ぶ機会が持てなくなった事があげられる。榛東村では、小学生の外遊びや体力づくりの充実を掲げ休み時間に極力全校で外に出て体を動かす機会を取り入れるよう指導している。一方中学校ではほとんどの生徒が部活

動を通し体を動かしていることで体力が落ちていることはないと考えている。

	男 子		女 子	
	親の世代	今の子ども達	親の世代	今の子ども達
身長 (cm)	142.4	145.2 (↑ 2.8)	144.4	147.2 (↑ 2.8)
50 m走 (秒)	8.8	8.9 (↓ 0.1)	9.1	9.2 (↓ 0.1)
ソフトボール投げ (m)	34.4	30.4 (↓ 4.0)	20.2	17.9 (↓ 2.3)

※親の世代は昭和53年度の11歳(さい)、今の子ども達は平成20年度の11歳(さい)
※全国平均値は小数点以下第2位で四捨五入しています。

直売所は元気に なるか

J A 農畜産物
直売所

質問 今、世の中は産直ブームだ。地方のみならず都会からドライブ、旅行で訪れる方がお土産として産地直売所に立ち寄るようだ。また、食の安心・安全や地産地消の観点から、今後さらに注目されていくと考えられる。ところで村内にあるJA農畜産物直売所の営業状況と今後の方針について教えてください。

産業振興課長 平



成20年度の売上は2,670万円で減少傾向にあり赤字である。また、今後については生産者みずから直接消費者へ販売できる施設として、生産者と消費者の顔が見える関係、安心・安全な食材の提供を通して共生関係の構築場所として利用できる施設を考えている。

相互推進型による住民と協働のむらづくりを



新たな行政へのアプローチ 「パブリックコメント手続き」を

対する意見・提案の機会を確保すると共に、政策決定プロセスへの住民参加をより一層推進するためにパブリックコメント手続きを導入している自治体がある。本村では、パブリックコメント手続きを実施する考えはないか。

村長 これは重要であると考え、導入に向け早急に検討していく。

質問 近年行政運営における公正の確保と透明性の向上を図り、住民の行政に

住民の意見を聞くために

質問 住民の意見や要望を聞くため「目安箱」が新庁舎内に設置されたが、広く村民の意見を集めるためその他の公共施設やホームページにも設置・公開したらどうか。

村長 広く目安箱を設置することは良いことであり、コミュニティセンター等の設置やホームページ掲載も検討していきたい。

高齢者に肺炎球菌ワクチン助成を

質問 現在日本人の死因4位が肺炎となっており、特に高齢者が肺炎にかかると重症化しやすい。肺炎球菌ワクチンは、肺炎の中で最も多い原因となる肺炎球菌によつて起る病気を防ぐワクチンである。いま新型インフルエンザが流行しているが、高齢者はインフルエンザにかかると肺炎を併発しやすく、死亡率も高くなる。高齢者に肺炎球菌ワクチンの助成

を行うという考えはないか。
村長 風邪等の予防などを含めてどうなのか、医師等の話も聞き検討していきたい。

歩行者・自転車・ベビーカーの安全対策

質問 安全対策として危険箇所の把握は現在、区長小中学校のPTAの皆様の協力を得て行っているが、新たに幼稚園や保育園のPTA、そして自転車通学者が多い高校生の声も反映できないか。

村長 実際事故も起きており、高校生の意見を反映することは、本当に良い意見である。同時に高校生に自転車の安全対策の注意も行うなども検討していかねばならない。

「ぐんま赤い糸プロジェクト」について

質問 未婚化晩婚化を食い止めようと、群馬県では独身男女の交流を促進する

「ぐんま赤い糸プロジェクト」を立ち上げている。イベント参加者は会員団体の登録をした企業・団体に属する独身者であるが、本年より個人登録も開始した。本村で個人登録は可能か。
子育て・長寿支援課長 結婚相談事業を行っている市町村の社会福祉協議会に登録すれば可能である。本村の社協では行っていないが、県内の8箇所の社協で行っている。

町村の社会福祉協議会に登録すれば可能である。本村の社協では行っていないが、県内の8箇所の社協で行っている。



庁舎1階にある「目安箱」



特色ある政策はあるか

質問 国が新政権に変わり村長のビジョンについて
村長 政権交代になり、地域主権に変わると国は発言している。これからも村への交付金は優先順位を自由に決められれば地方主権で

あり良い制度で政権交代して良かったと思う。また所得譲与税的なものがすくなくなり、財源の状況も変化しており、ビジョンを描けないのが現状である。だが、村民が幸せに、安全・安心に暮らせるためには、政権が変わっても、今までの良いものはやっつけていくし、ビジョンは描いていかなければと考えている。
質問 中学校の建て替え工事について
村長 40数年もたっている校舎で耐震性に問題があり最優先課題として進めている。

質問 建て替えは総額でいくらなのか一連の説明を。
教育委員会事務局長 実施設計を本年度末に完了し、

22年度、23年度で建てる。24年度、既設の校舎を取り壊し、工事費についてはおよそ15億円。そのうち8億円程度が防衛省と文部科学省の補助金このほか一般財源、義務教育施設整備基金、今年度末の予算ベースで4億一千万円程度、さらに庁舎建設基金の残りも振り向けていく。

P R の波にのれるか

質問 2年後に本県を対象とした国内最大の観光P R行事の予定がある。村としての取り組みは。
産業振興課長 地方自治体・地元観光関連事業者・J R 6社の三者が一体となり協力し、観光資源を掘り起こし誘客を図る。行事は

23年7月から9月にかけて開催予定。村有施設では耳飾り館、民間施設ではハルナグラス、地球屋、卯三郎こけし、民宿しおざわなどが主な観光素材となる。これらを22年9月予定の全国宣伝販売促進会議でP R資料として情報提供していく。

「フロンティア精神で自主財源を」



建て替予定の校舎



地元の小規模工事は 地元の業者に

質問 地元の小規模事業者の受注機会を拡大するために、小規模工事希望者登録制度を導入する考えはないか。

村長 小規模工事希望者の支援と、村の活性化が図れるような制度の導入を検討する。

国保資格証の発行は 0にできないか

質問 本年10月1日、国保保険証一斉交付時における資格証の発行数と該当世帯の実態把握は。

健康・保険課長 資格証交付世帯数は49世帯、国保世帯の2.3%。内訳は居住不明者23世帯、※分納誓約や納税相談に來ない26世

帯。その後納付して短期保険証に切り換えた方が6人。資格証世帯の実態については税務課が滞納整理で訪問し把握した結果、負担ができない世帯ではない。土地・家屋を所有している方が多い。

質問 資格証世帯の人が医療機関を受診したかどうか

健康・保険課長 10割負担でかかり、村への請求もないので把握できない。

質問 国保法第9条で「特別な事情があると認めるときは、被保険者証を交付する」同法施行令第一条の3

の2号に「特別な事情とは、病気にかかったり、負傷した時」このことを資格世帯に知らせているか。

健康・保険課長 滞納世帯に呼び出しの通知を送付する時に「病気などの特別な事情がある方は村に申し出ていただきたい」内容のお知らせを、あわせて送っている。

質問 命を守るための第一歩が保険証だ。資格証を出すのではなく、短期保険証にできないか。

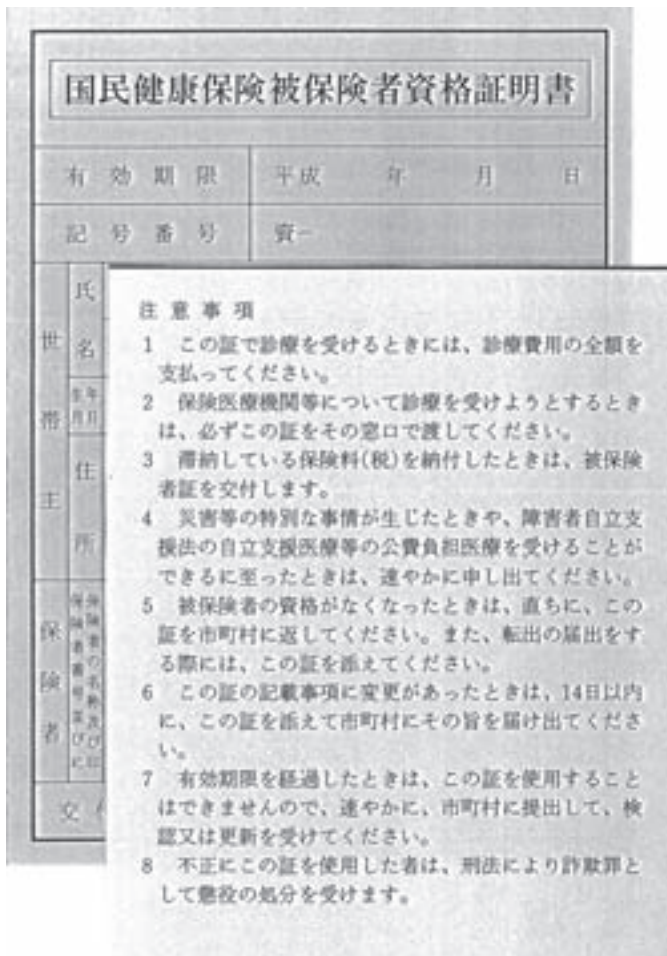
村長 国保制度は、みんなで助け合う扶助の精神だ。

生活困窮者であれば生活保護制度などの助けがあるがそんな相談もない。しかし、資格証の人が入院した場合、短期保険証に切り換えるつもりはある。何でもかんでも保険証を出す考えはない。

用語解説

※分納誓約書

定められた納期に保険税が納められない場合などに、納税者と村とで相談の上、支払回数や支払金額について取り交わす約束書



質問 例えば認知症サポートー養成のために、住民が学びやすい規模(10人位)で集まった場所に村から講師が出向いて勉強の手助けをする。そんな出前講座をできないか。

総務課長 まず役場の職員がいろいろ勉強し、体制ができてから考えたい。

村長 県や市と違い、村は職員の数が少なく、異動もあり、専門性を深められるかという問題がある。県などを活用した方が間違いない。

住民の「知りたい・学びたい」 声に応える出前講座の制度化を